

最近の信用金庫と国内銀行の地区別預貸金増加率の動向

視点

コロナ禍による資金需要の急拡大を受け、2020年には信用金庫の貸出金増加率（末残の前年同月比）は急上昇したが、2021年になると3月末の実質無利子・無担保融資の申込終了を経て、5月末から低下傾向をたどった。その間、預金増加率（末残の前年同月比）も追随する形で低下した。しかし、最近数か月では、信用金庫の預貸金増加率は低下ペースがしだいに鈍化してきている。この動きは国内銀行でも同じなのか。そして、両者の貸出金増加率の動きにはどのような違いがみられるのか。本稿では、これらの点について地区別の動きを含め概観する。

要旨

- 全国ベースの信用金庫の預貸金増加率は、2021年5月末からいずれも低下傾向をたどったが、2022年に入り、ほぼ横ばいとなっている。一方、国内銀行の場合は、預金増加率、貸出金（銀行勘定ベース）増加率が2021年に入り相次いで低下傾向に転じた後、貸出金増加率は再び上昇傾向に転じている。その結果、2020年半ば以降、国内銀行を上回ってきた信用金庫の貸出金増加率は、2021年12月末以降は国内銀行を下回っている。
- 信用金庫の地区別の貸出金増加率をみると、2022年6月末時点で、東北、関東、東海、近畿、四国、九州北部の6地区では増加率がプラスとなっている。一方、残る北海道、東京、北陸、中国、南九州の5地区では増加率がマイナスとなっているが、大半の地区で増加率が下げ止まる兆しがみられる。地区別預金増加率に目を転じると、全11地区でプラスでの推移となっており、北陸、南九州ではプラス幅が拡大傾向にある。
- 国内銀行の貸出金増加率の推移を信用金庫の地区別にみると、最近では、東京、東海、近畿、中国、四国で上昇傾向にあり、北海道、東北、関東、北陸、九州北部、南九州ではほぼ横ばいである。一方、地区別預金増加率は、最近では、北海道、近畿では低下傾向にあるものの、残る9地区ではほぼ横ばいである。
- 信用金庫の地区別貸出金増加率を国内銀行のそれと比較すると、最近では北海道を除く10地区で信用金庫の増加率が国内銀行を下回っている。

キーワード

信用金庫 国内銀行 地区別 預貸金増加率 預貸金増加率差 貸出金増加率業態間差

目次

1. 信用金庫と国内銀行の預貸金増加率の推移（全国ベース）
 2. 信用金庫の地区別預貸金増加率の推移
 3. 国内銀行の地区別預貸金増加率の推移
 4. 信用金庫と国内銀行の地区別貸出金増加率の対比
 5. まとめ
- おわりに

1. 信用金庫と国内銀行の預貸金増加率の推移（全国ベース）

(1) 信用金庫

全国ベースの信用金庫の預貸金増加率（以下、本稿での増加率は末残の前年同月比。）の推移をみると、2021年5月末から低下傾向をたどってきた。ただ、2022年に入り預金の増加率は2%程度で、貸出金の増加率は0%程度でほぼ横ばいとなっている（**図表1参照**）。その結果、広がる傾向がみられた両者の差（＝貸出金増加率－預金増加率）も、最近では横ばいとなっている。

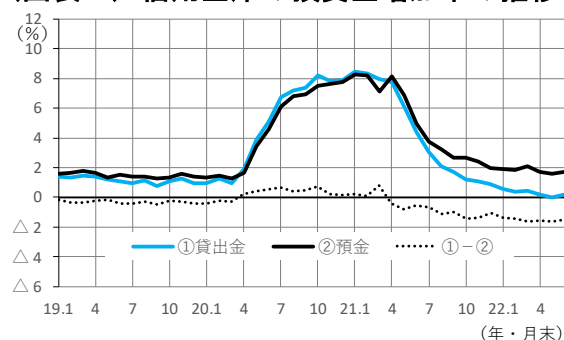
(2) 国内銀行

一方、国内銀行の状況は、信用金庫とは異なっている。2019年9月末以降、預金増加率が貸出金増加率（以下、本稿での国内銀行貸出金末残は銀行勘定ベース）を上回る状況が続き、両者の差は2021年4月末まで拡大傾向をたどった（**図表2参照**）。2021年に入り、いずれの増加率も低下傾向に転じたが、ここ最近、貸出金増加率は再び上昇傾向に転じており、2022年6月末に両者はほぼ並んだ。

(3) 貸出金増加率の対比

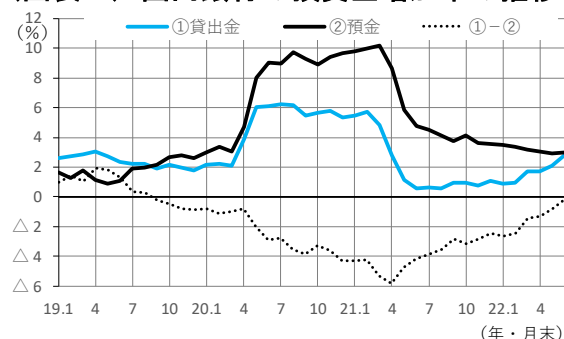
上記のとおり、信用金庫、国内銀行ともに、2021年に入り貸出金増加率が急低下したが、ここ最近をみると、信用金庫では伸び悩みの状況が続く一方、国内銀行は、上昇傾向に転

(図表1) 信用金庫の預貸金増加率の推移



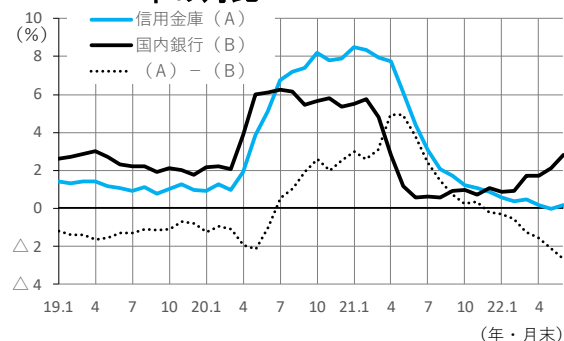
(備考) 1. 以下、本稿での増加率は、末残の前年同月比
2. 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

(図表2) 国内銀行の預貸金増加率の推移



(備考) 1. 以下、本稿の国内銀行の貸出金は銀行勘定ベース
2. 図表3とも日本銀行資料より作成

(図表3) 信用金庫と国内銀行の貸出金増加率の対比



じている（図表3参照）。この結果、両者の増加率の差は、2021年5月末時点では信用金庫が国内銀行を5ポイント程度上回っていたが、その後しだいに縮小し、2021年12月末以降は、国内銀行が信用金庫を上回る状況が続いている。

2. 信用金庫の地区別預貸金増加率の推移

図表4は、信用金庫の貸出金、預金の増加率と両者の差を11地区¹の別に示したものである。以下、最近の動きを中心に概観する。

(1) 貸出金

2022年6月末時点で、東北、関東、東海、近畿、四国、九州北部の6地区では増加率がプラスとなっている。一方、残る北海道、東京、北陸、中国、南九州の5地区では増加率がマイナスとなっているが、大半の地区で下げ止まる兆しがみられる。

(2) 預金

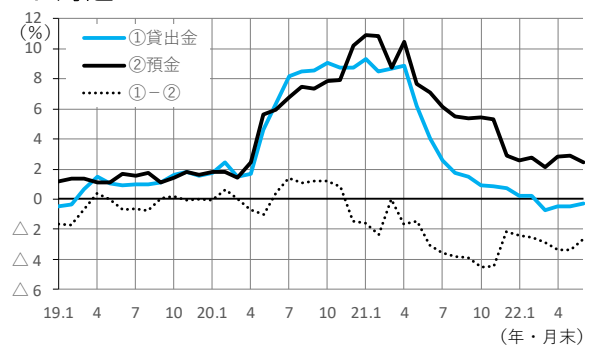
2020年4月末以降、全11地区において増加率はプラスで推移している。最近をみると、関東、中国ではプラス幅は縮小傾向にあるが、北陸、南九州は拡大傾向にある。残る北海道、東北、東京、東海、近畿、四国、九州北部はほぼ横ばいである。

(3) 預貸金増加率の地区別対比

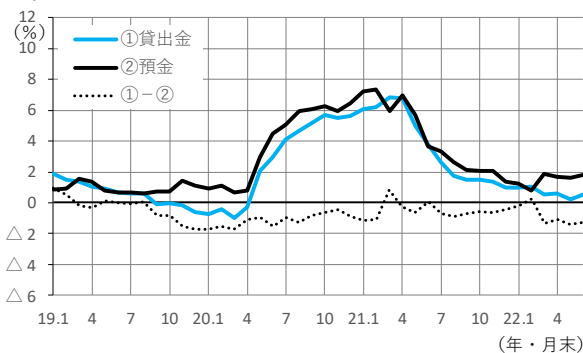
地区別に①貸出金の増加率から②預金の増加率を引いた差（①－②）の推移をみると、最近では、全11地区でマイナスとなっている。

差は、東京、東海では拡大傾向にある一方、北海道、関東、四国、九州北部では縮小傾向にある。

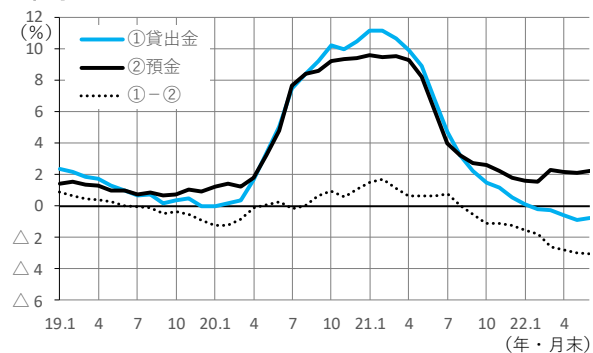
（図表4）信用金庫の預貸金増加率の地区別推移
北海道



東北

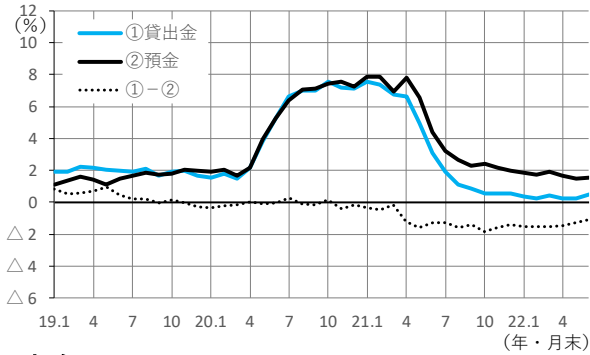


東京

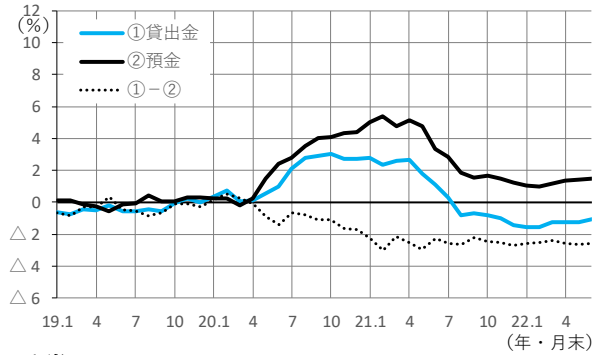


¹ 信用金庫の地区区分は、関東は群馬、栃木、茨城、埼玉、千葉、神奈川、新潟、山梨、長野の9県、東海は、静岡、愛知、岐阜、三重の4県、九州北部は福岡、佐賀、長崎の3県、南九州は熊本、大分、宮崎、鹿児島県の4県からなる。

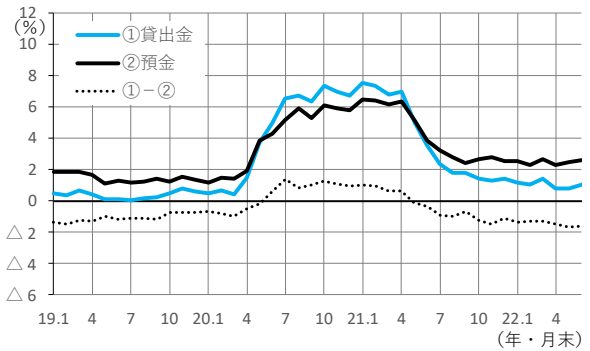
(図表4) (続き)
関東



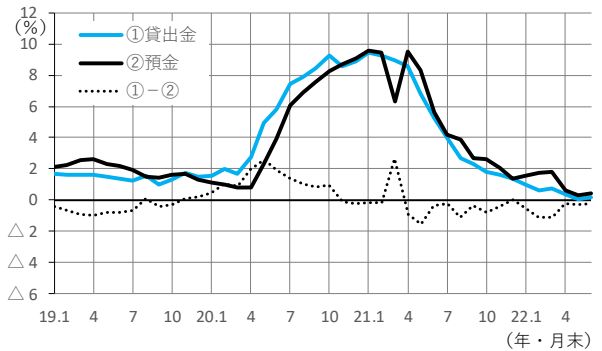
北陸



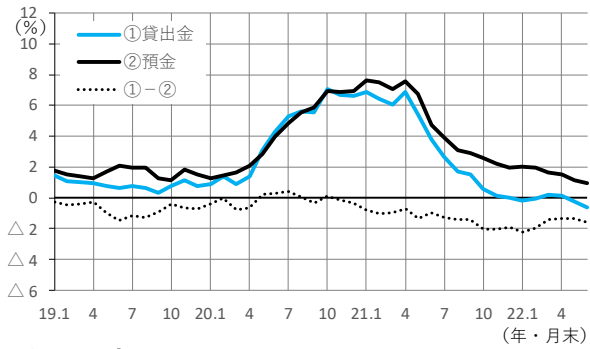
東海



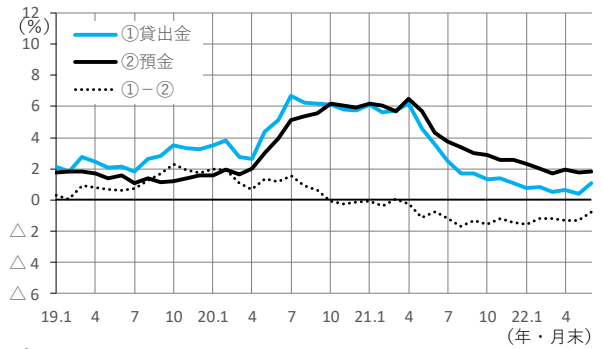
近畿



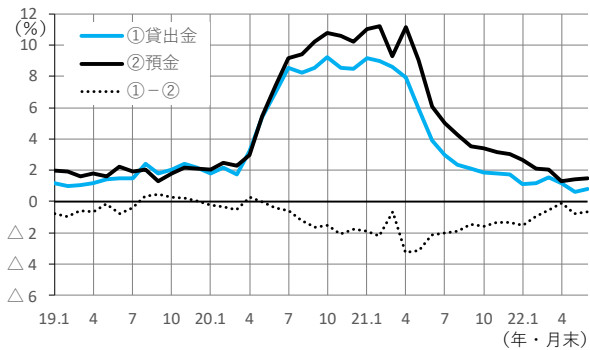
中国



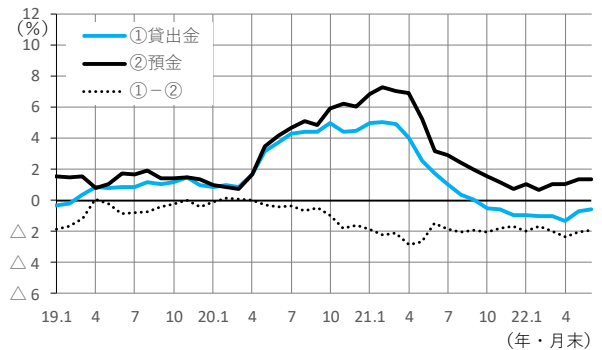
四国



九州北部



南九州



(備考) 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

3. 国内銀行の地区別預貸金増加率の推移

図表5は、国内銀行の貸出金、預金の増加率と両者の差を11地区の別に示したものである。信用金庫と同様、最近の動きを中心に概観する。

(1) 貸出金

北海道では、直近(2022年6月末)の増加率はマイナスとなっており、最近はほぼ横ばいである。増加率がプラスとなっている10地区に着目すると東北、関東、北陸、九州北部、南九州では増加率がほぼ横ばいで推移する一方、東京、東海、近畿、中国、四国では増加率が高まる傾向がみられる。

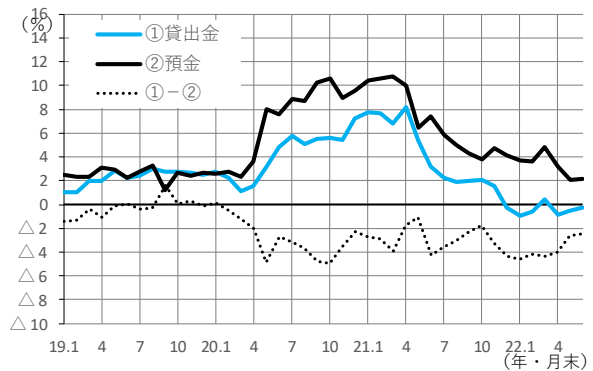
(2) 預金

2020年以降、11地区いずれも前月比プラスで推移している。最近では、北海道、近畿では増加率は低下傾向にあるものの、残る9地区ではほぼ横ばいである。

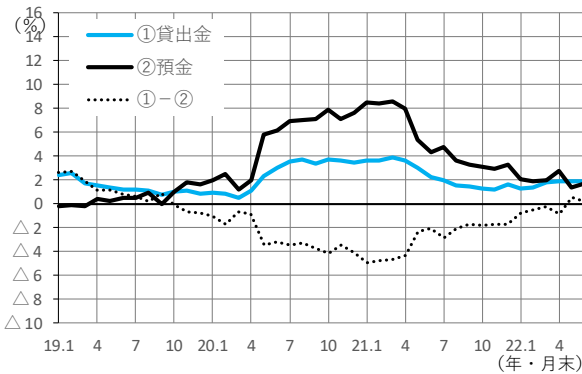
(3) 預貸金増加率の地区別対比

地区別に①貸出金増加率から②預金増加率を引いた差(①-②)の推移をみると、2022年6月末は、東北、東京、中国、四国を除く7地区でマイナスとなっている。差は、関東、南九州ではほぼ横ばい、北陸ではマイナス幅を拡大する傾向にある。しかし、残る8地区では、貸出金増加率と預金増加率の差のマイナス幅が縮小する、ないしはプラス幅が拡大する傾向にある。

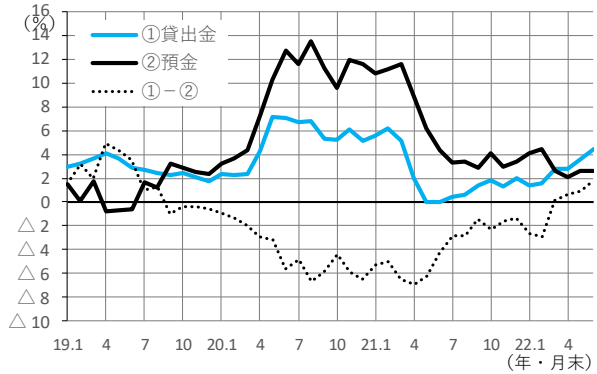
(図表5) 国内銀行の預貸金増加率の地区別推移
北海道



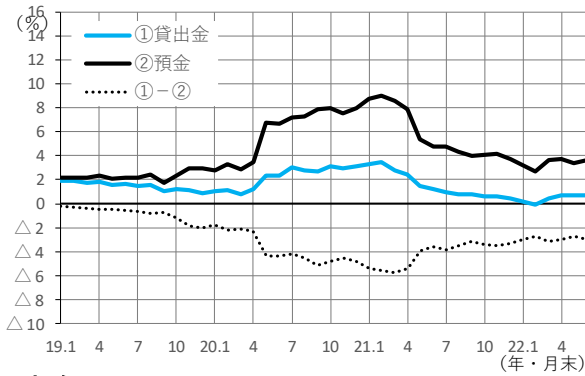
東北



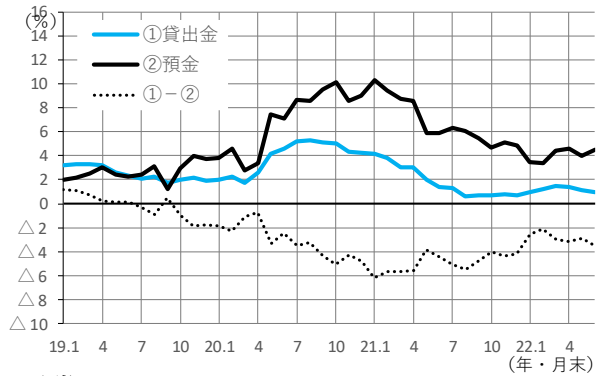
東京



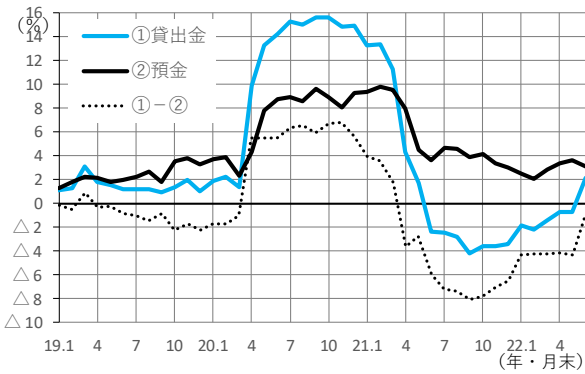
(図表5) (続き)
関東



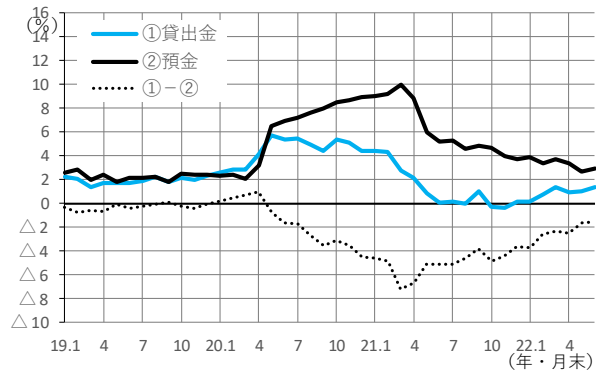
北陸



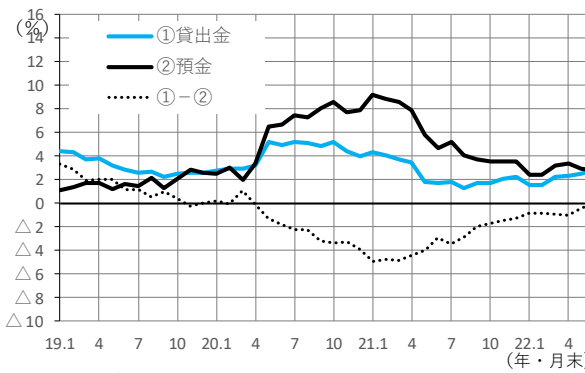
東海



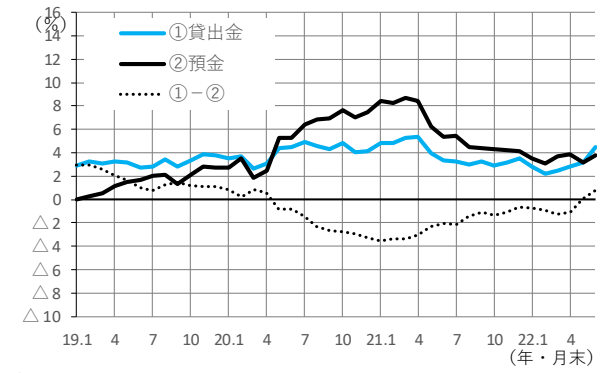
近畿



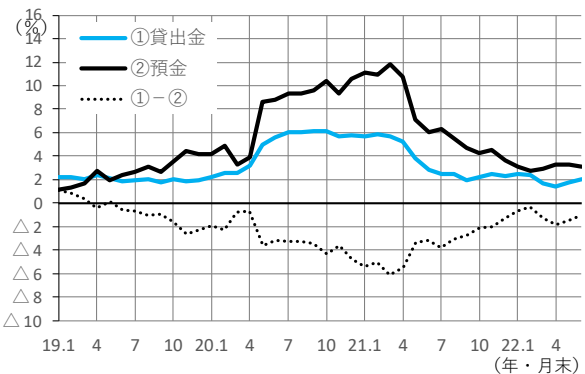
中国



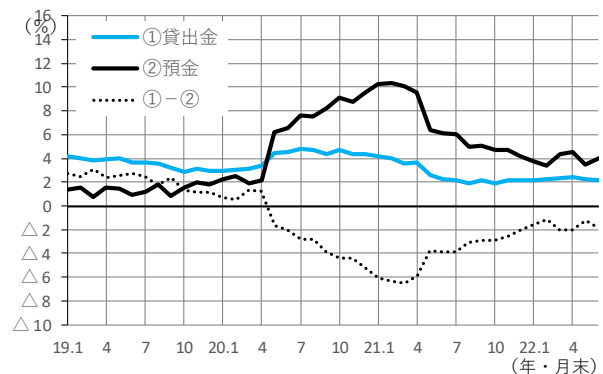
四国



九州北部



南九州



(備考) 図表6とも日本銀行資料より作成

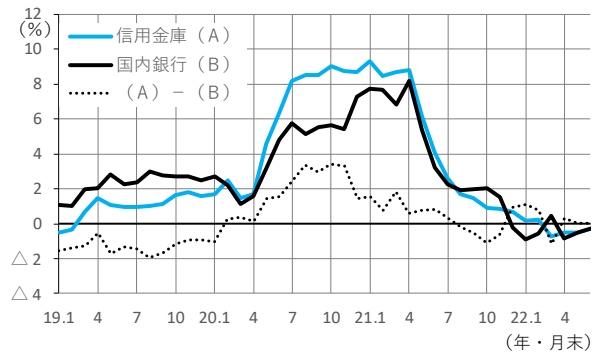
4. 信用金庫と国内銀行の地区別貸出金増加率の対比

信用金庫(A)の地区別貸出金増加率から国内銀行(B)のそれを引いた差((A) - (B))の推移をみると、2022年6月末時点で北海道を除く10地区でマイナスとなっており、多くの地区で信用金庫の増加率が国内銀行を下回っている(図表6参照)。

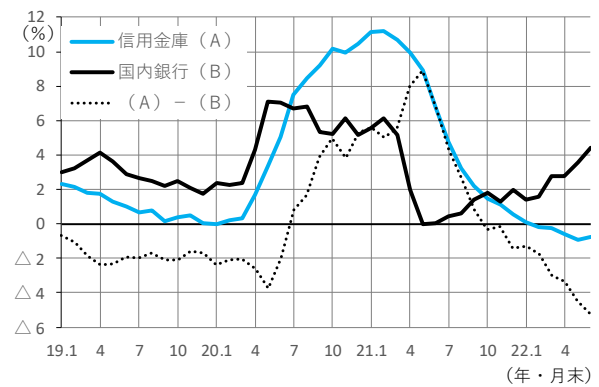
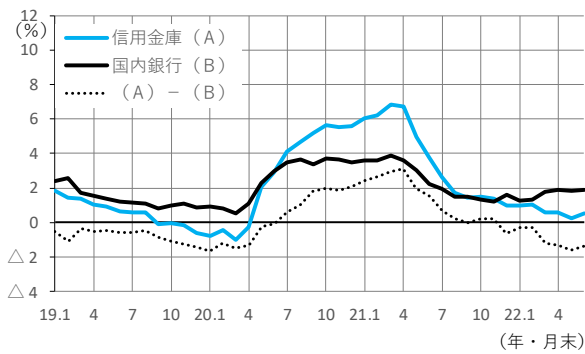
両者の乖離幅をみると、北海道は小幅プラスで推移している。その他10地区のマイナス幅をみると、東北、東京、東海、近畿、中国、四国では拡大傾向、関東、九州北部は横ばい、北陸と南九州では縮小傾向にある。

(図表6) 信用金庫と国内銀行の地区別貸出金増加率の対比

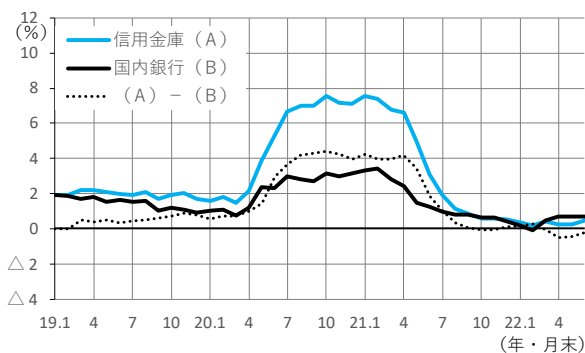
北海道



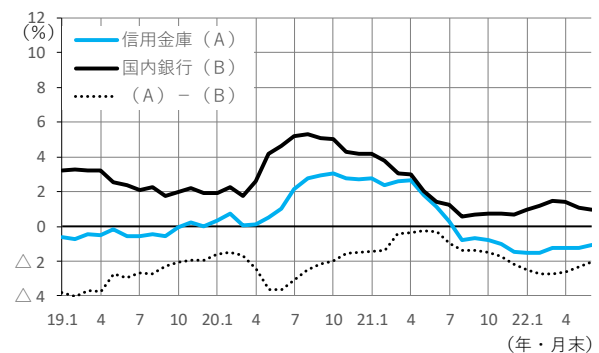
東北



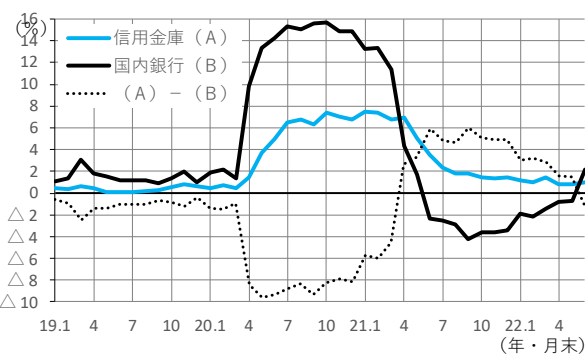
関東



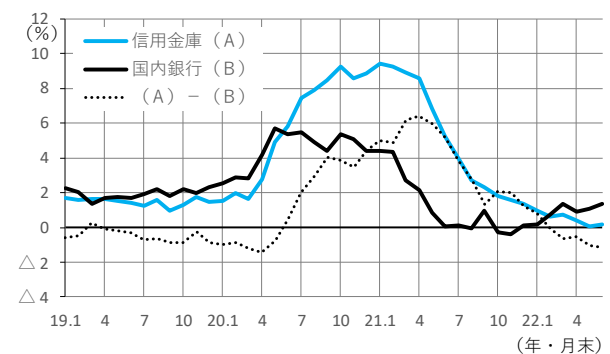
北陸



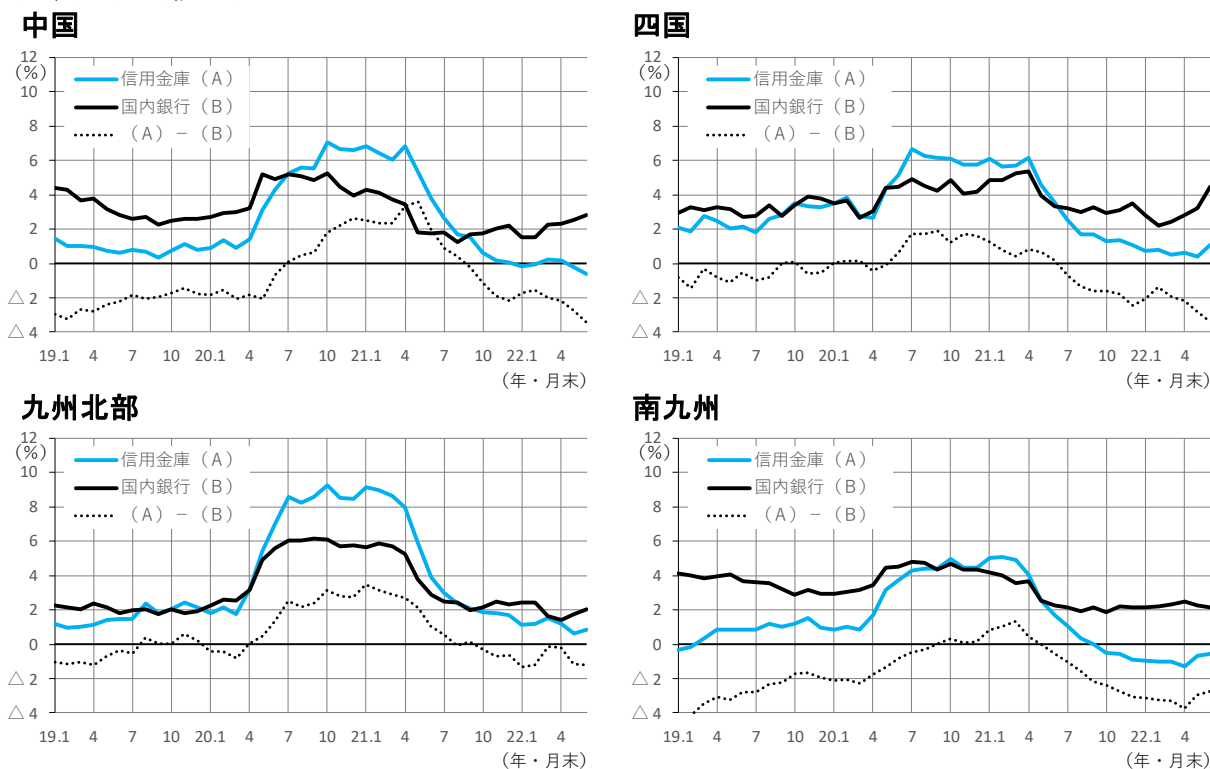
東海



近畿



(図表6) (続き)



5. まとめ

以上、信用金庫と国内銀行それぞれの①貸出金増加率および②預金増加率、ならびに両者の差 (①-②)、さらには信用金庫(A)と国内銀行(B)の貸出金増加率差((A)-(B))について、最近の動きを全国および地区別にみてきた。

「上昇傾向」、「横ばい」、「低下傾向」の別に該当する地区の数を見ると、預金増加率については信用金庫が2、7、2、国内銀行が0、9、2であり、ともに上昇傾向が少ない。一方、貸出金増加率については、信用金庫が2、6、3であるのに対し、国内銀行は5、6、0となった。信用金庫も国内銀行も横ばいが多いが、国内銀行は、低下傾向の地区がない分、上昇傾向の地区も信用金庫より多い。

この結果、預貸金増加率の差も、信用金庫の4、5、2に対し、国内銀行は8、2、1となった。

信用金庫と国内銀行の貸出金増加率の差(信用金庫の伸びから国内銀行の伸びを差し引いたもの)を地区別にみると、貸出金増加率の状況が異なっていることを反映し、上昇傾向2、横ばい3、低下傾向6となっている。国内銀行に比べ、信用金庫の貸出金の伸びが振るわない地区が多いことを読み取れる。一方、地区内の市場シェアが大きい国内銀行の貸出金増加率が高まる傾向にある地区では、貸出市場全体の需要が改善している可能性がある。取引先企業規模や業種別構成など、信用金庫と国内銀行とで顧客属性が異なる面もあろうが、こうした地区では、信用金庫の貸出が先行き上向くことも想定できよう。

おわりに

3回目のワクチン接種も進み、一度は、2年にわたるコロナ禍の収束への期待感が始まっていた。最近の信用金庫取引先中小企業の景況も、改善傾向のようである。上記の図表のように、金融機関の預貸金動向にも当初のコロナ禍の影響を経た次の展開が見え始めてきている。

しかし、ロシア軍によるウクライナ侵攻、世界のサプライチェーンの綻び拡大、米FRBの利上げへの政策転換が、世界の資源と食料価格の急騰、為替レート的大幅円安を通じ、国内物価の上昇に拍車をかけつつある。今回の円安もあって、国内企業はサプライチェーンを見直し、その設備投資計画額を増加させる一方、世界的には景気後退懸念が出てきている。コロナ関連実質無担保・無利子制度融資の返済が本格化しようという状況下で企業倒産件数が増加しつつあり、コロナ感染も第7波に入るなど、足もとでさまざまな動きもみられる。

こうした内外経済の変動要因が、金融機関の預貸金業務に与える影響について、今後とも注視していく必要がある。

以上
(間下 聡)

本レポートのうち、意見にわたる部分は、執筆者個人の見解です。また当研究所が信頼できると考える情報源から得た各種データなどに基づいてこのレポートは作成されておりますが、その情報の正確性および完全性について当研究所が保証するものではありません。

【バックナンバーのご案内：金融調査情報】（2021年度・下期～）

号 数	題 名	発行年月
2021-20	最近の信用金庫と国内銀行の地区別貸出金増加率の動向	2021年10月
2021-21	地域金融機関による不動産の有効活用 - 発注者支援の手法も活用した川崎信用金庫の事例 -	2021年10月
2021-22	大和証券グループのSDGsへの取り組み	2021年12月
2021-23	信用金庫の個人ローン残高の動向	2021年12月
2021-24	やさしく読み解くSDGs（3） - ESG投資の潮流と今後の課題 -	2022年1月
2021-25	地域金融機関による補助金申請支援の取組事例 - 外部専門家活用によるノウハウ蓄積から有料化へ -	2022年1月
2021-26	経営指標の変化から見えるコロナ禍含む3年間の 信用金庫業界の構造変化	2022年1月
2021-27	三島信用金庫の共同店舗化への取り組み	2022年3月
2021-28	信用金庫のベテラン層向けリカレント教育について - 株式会社ライフシフトの取り組み -	2022年3月
2022-1	灰色のサイー不動産バブルの持続的拡大と中国債務の現在－	2022年4月
2022-2	「従業員エンゲージメント」の改善策について	2022年4月
2022-3	「越境学習プログラム」への取り組みについて	2022年4月
2022-4	最近の信用金庫と国内銀行の不動産業向け貸出と不動産価格の 動向	2022年4月
2022-5	2021年度の全国信用金庫主要勘定状況（速報） - 預金は2.1%増、貸出金は0.4%増 -	2022年5月
2022-6	DX人材育成への取り組みについて	2022年6月
2022-7	人口減少・少子高齢化時代の取引先支援策について	2022年6月
2022-8	健康管理アプリ導入による健康経営への推進強化策について	2022年6月
2022-9	地域銀行の食品ロス削減支援への取り組みについて	2022年6月

信金中央金庫 地域・中小企業研究所 活動状況 (2022年7月実績)

○レポート等の発行状況

発行日	レポート分類	通巻	タイトル
22.7.1	ニュース&トピックス	2022-37	信用金庫の個人ローン残高の動向(2021年度末)
22.7.1	ニュース&トピックス	2022-38	信用金庫の住宅ローン残高の動向(2021年度末)
22.7.1	ニュース&トピックス	2022-39	信用金庫のカードローン等残高の動向(2021年度末)
22.7.1	ニュース&トピックス	2022-40	信用金庫の地公体向け貸出の動向(2021年度末)
22.7.1	ニュース&トピックス	2022-41	信用金庫の事業性貸出金残高の動向(2021年度末)
22.7.4	ニュース&トピックス	2022-42	信用金庫の定期預金残高の動向(2021年度末)
22.7.4	ニュース&トピックス	2022-43	信用金庫の定期積金残高の動向(2021年度末)
22.7.4	ニュース&トピックス	2022-44	信用金庫の不動産業向け貸出の動向(2021年度末)
22.7.4	ニュース&トピックス	2022-45	信用金庫の事業性貸出先数の動向(2021年度末)
22.7.4	ニュース&トピックス	2022-48	「地方公共団体実行計画制度」の実効性の確保に向けて
22.7.4	内外金利・為替見通し	2022-4	日銀は強力な緩和策を継続すると見込まれ、イールドカーブを低位安定へ
22.7.5	ニュース&トピックス	2022-49	脱炭素社会の実現に向けて期待される企業の「脱炭素経営」
22.7.11	ニュース&トピックス	2022-50	シアターラーニング研修について
22.7.13	ニュース&トピックス	2022-53	信用金庫の女性職員比率の動向(2021年度末)
22.7.13	ニュース&トピックス	2022-54	信用金庫の個人預金口数の動向(2021年度末)
22.7.13	ニュース&トピックス	2022-55	信用金庫の個人向け貸出先数の動向(2021年度末)
22.7.13	ニュース&トピックス	2022-56	信用金庫の医療・福祉向け貸出の動向(2021年度末)
22.7.13	ニュース&トピックス	2022-57	2022年6月末の信用金庫の預金・貸出金動向(速報) -預金は1.7%増、貸出金は0.1%増-
22.7.13	産業企業情報	2022-8	ポスト・コロナを見据えた「脱炭素」の実現に向けて④ -企業における「脱炭素経営」の促進に向けて-
22.7.14	ニュース&トピックス	2022-58	「新しい資本主義」で期待されるセキュリティトークンの活用
22.7.15	中小企業景況レポート	188	4~6月期業況は2四半期ぶりの改善 【特別調査-混迷する経済社会情勢と中小企業経営】
22.7.15	産業企業情報	2022-9	ポスト・コロナを見据えた「脱炭素」の実現に向けて⑤ -「地域脱炭素」に向けた地球温暖化対策の推進-
22.7.19	ニュース&トピックス	2022-59	中小企業における価格転嫁は道半ば、販売価格の引上げが不可欠 -全国中小企業景気動向調査の結果から-
22.7.25	ニュース&トピックス	2022-60	グリーンボンドガイドライン等(2022年版)の改訂のポイント
22.7.28	産業企業情報	2022-10	生の声から読み解く中小企業の実態 -全国中小企業景気動向調査(2022年4-6月期)より-

○講演等の実施状況

実施日	講演タイトル	主催	講演者等
22.7.7	主要経済指標の見方	さがみ信用金庫	奥津智彦
22.7.7	信用金庫の歴史と最近の動向	目黒信用金庫	刀禰和之
22.7.13	ウクライナ・ロシア紛争は中小企業に何をもたらすのか?	大分県中小企業家同友会中津支部	鉢嶺 実
22.7.30	信用金庫業界のネットワークを活用した地域活性化への取り組み	地域デザイン学会	大野英明

<信金中央金庫 地域・中小企業研究所 お問い合わせ先>

〒103-0028 東京都中央区八重洲1丁目3番7号
 TEL: 03-5202-7671 (ダイヤルイン) FAX: 03-3278-7048
 e-mail: s1000790@FaceToFace.ne.jp
 URL <https://www.shinkin-central-bank.jp/> (信金中央金庫)
<https://www.scbri.jp/> (地域・中小企業研究所)